

我が町の森林を未来に託す ～地元小学校を対象とした取組～

網走西部森林管理署西紋別支署

脇本 大輔
川村 圭子

はじめに

「滝上みどりの森林(もり)推進協議会」は、平成23年の国際森林年を契機に、滝上町・滝上町森林組合・網走西部森林管理署西紋別支署・地元林業業界によって設立されました。設立にあたって、地域林業に関わる若者に自由な発想で企画・立案してもらい、地域の方々に「もっと森林を身近に、できれば森林の中に入ってもらえたら」との思いがあり、現在は主な活動として、地域の小学生を対象に森林環境教育を行っています。

本発表では、令和元年度に実施した森林環境教育の取組内容を紹介し、今後の活動について検討します。

滝上町

網走西部
森林管理署
西紋別支署

滝上町
森林組合

地元
林業業界

昨年度の取組内容

令和元年度は、滝上町内の滝上小学校6学年、濁川小学校3～6学年の児童を対象に計4回の森林環境教育を行いました。

第1回

フィールド学習

- 学校林や遊歩道にて実施
- 森林の働きについて説明
- 自然観察
- フィールドビンゴ



フィールド学習の様子

第2回

苗畑見学

- 地元企業の苗畑を見学
- 町内で生産されている苗木やコンテナ苗について学習
- 郷土資料館にて滝上町の林業の歴史を学習



質問する児童たち

第3回

製材工場見学

- 地元企業の製材工場を見学
- 木材の用途や製材工場の仕事について学習



製材工場見学

第4回

間伐現場見学

- 地元企業の社有林にて間伐作業を見学
- 森林の機能や間伐の必要性・意義について学習



間伐現場で聞き取り

フィールドビンゴとは

配布したビンゴカードをもとに、五感を発揮しながら森林を散策し、森林内に存在する様々なモノ(木の実やきのこ、いにおいのする葉など)を探るネイチャーゲームです。

児童からは、「あった!」「あと何個!」「こっちに行ってみよう!」など、積極的にコミュニケーションをとりながら探し回っている様子が見てとれました。

滝上小児童による 学習成果発表

- 小学校の「総合的な学習の時間のまとめ」として、森林環境教育での学習成果を壁新聞にまとめ発表
- 壁新聞のテーマは「伐採後の木材」「木の種類と使われ方のちがい」「林業に関わる仕事について」「地球と森林の関係」
- 児童自ら森林・林業をテーマに課題を見つけ、その課題を解決する方法を学び、解決した結果をまとめることを実践



児童が作成した壁新聞



発表会の様子

今後の展開

滝上町は、森林面積が約90%を占める自然豊かな町で、林業が基幹産業のひとつとなっています。そのため、町内で苗木の生産から伐採、製材と林業の一連の流れを見ることが出来ます。森林環境教育においては、このような滝上町の特色を生かし、座学だけでなく実際に林業の作業風景を見学し、林業従事者の方に直接質問することで、より森林・林業への理解が深まるのではないかと考えられます。さらに、植林体験やネイチャーゲームなどの体験型学習を多く取り入れ、多方面から地元小学生の好奇心にアプローチすることで、森林・林業に対する児童の学習意欲や知識レベルが向上し、滝上町の木材・林産業の振興や発展につながることも期待できます。

また、滝上町内の児童の数は少数ですが、だからこそ意見を今後の環境教育に取り入れやすいといえます。今後は、活動後に児童を対象にアンケートを行い、集約結果を次年度の活動にフィードバックすることも検討しています。